

# 専門・認定看護師会ニュースレター

## 認知症の進行の程度に合わせて支援しましょう

個別性のある認知症ケアを提供するためには、進行の程度をふまえてアセスメントする必要があります。進行の程度を知るための知識として、認知症の重症度判定（FAST 分類）について今回はご紹介します！

認知症のある患者さんの低栄養の要因に関しては進行度によって異なるため、「認知症だから食べられない」と一括りにせず原因を探って援助の工夫を検討しましょう！

### —認知症の重症度判定：FAST 分類—

重症度(ステージ)	臨床診断	症状の特徴の例
1. 認知機能障害なし	正常	主観的・客観的機能低下は認められない
2. 非常に軽度の低下	年齢相応	物の置き忘れを訴える 正常な加齢変化
3. 軽度の低下	境界	重要な約束を忘れる IADL は支障なし
4. 中等度の低下	軽度の認知症	家計の管理・買い物に支障がある ADL は支障なし
5. やや高度の低下	中等度の認知症	ADL に支障が出始める 季節に合わない服を着る 交通事故を起こしやすい 感情障害が出ることもある
6. 高度の低下	やや高度の認知症	不適切な着衣、入浴拒否、排泄行動がとれない(失禁)
7. 非常に高度の低下	高度の認知症	言語機能の低下、寝たきり状態、感情の表出が減る

※「認知症高齢者の日常生活自立度」との違い：日常生活自立度判定は介護の必要度を意味する（要介護認定などで用いられる）

### —認知症の進行度に伴う食事への影響—

<軽度>

食事の管理に注意や興味・関心が向きにくくなる

物の段取りをうまく立てられずに買い物や料理ができなくなる

⇒ 食事の回数・量が低下する

<中等度>

食事が中断しやすかったり食器(食具)の使用が難しくなる

⇒ 食べ続けることが難しくなる

<高度>

嚥下障害を合併して摂食自体が困難になる



### 認知症の病期（進行度）を確認することでのメリット

- ・生活全般に必要なケアを検討できる ⇒ ケアの計画を立てやすくなる
- ・今後起こり得る問題をあらかじめ推測できる ⇒ 予防的な対応につながる



#### 参考文献

小川 朝生 著：

あなたの患者さん、認知症かもしれません—急性期・一般病院におけるアセスメントからBPSD・せん妄の予防、意思決定・退院支援まで（株）医学書院 2017.